



2018
冬季号

ほっと石川

特集

診療スタート! 新県立中央病院

INTERVIEW

京田 陽太さん (プロ野球選手)



診療スタート！
新県立中央病院 …… 2

知事の窓 …… 12

ほほえみ 石川のボランティア
人形劇サークル「くるりんぱ」
(野々市市) …… 12

INTERVIEW
京田 陽太さん
(プロ野球選手) …… 13

冬のおでかけ情報
「加賀四湯博」&
「能登ふるさと博」を
開催中 …… 14

Information
石川県知事選挙 …… 16

表紙について

■シリーズ
いしかわの歳時記
起舟祭

起舟祭は、県内各地の港で開かれる旧正月を祝う行事で、大漁旗をなびかせた漁船が港に集まり、その年の豊漁を祈ります。もともとは冬の間、浜に引き上げていた舟を再び海に浮かべたことにちなむ行事で、藩政期から続くと言われています。当日は関係者が集まって宴を開くのも習わして、にぎやかな雰囲気の中で漁師の皆さんは仕事始めを迎えます。一方、今号のほっと石川にも、県民の皆さんに知っていただきたい話題が「大漁」です。ぜひお楽しみください。

表紙切り絵制作 / さぶさちえ (金沢市出身)

特集 診療スタート！ 新県立中央病院

建て替え工事を進めていた「石川県立中央病院」が完成し、今月から診療をスタートしました。1976年に現在の場所に開院してから41年。温かみのある外観に生まれ変わった新病院は、健康面から県民の安全・安心を守るための特色にあふれています。ふるさと石川の医療新時代を切り開く新県立中央病院を10ページにわたって特集します。



病院長
Message
メッセージ

これからの時代を見据えた
県民にやさしい病院へ

高齢出産や 先進治療に対応

県立中央病院の再スタートを機に、私たちは、時代を見据え、県民の皆さまにより一層やさしい病院を目指していきたくと考えています。

例えば、新病院では、現代社会が直面する課題である「少子高齢化」に対応し、赤ちゃんとお母さん、お年寄りへのサポートに力を入れています。



さまざまな専門家がワンストップで対応する相談室

ています。増加する高齢出産などをカバーするため

総合母子医療センターの機能を強化し、がん治療では、高齢の患者さんの体への負担を抑える先進治療を積極的に導入できるよう、化学療法室や手術室などの設計にも気を配りました。

このほかにも、個人のプライバシーに配慮した個室の4床室や、ドクターヘリの導入にともなう救命救急機能の充実など、新病院では時代のニーズに込めるさまざまな特色を盛り込んでいます。

皆さんが暮らす地域の医療機関などに引き継ぐケースが数多くあります。

ただ、患者さんとその家族にとっては、今後の治療やリハビリに関して大きな不安もあることでしょう。そんな悩みのワンストップ窓口が相談室で、内容に応じて看護師や臨床心理士、栄養士、薬剤師、介護士などが対応します。

県立中央病院では、一人ひとりに合った診療を提供できるよう、医師を中心に医療・福祉分野の多彩な専門家によるサポートに、今まで以上に力を注いでいく考えです。

多彩な専門家で 支える相談体制

1階エントランスを入つてすぐに16室構えた相談室も、当院の姿勢を色濃く表す設備です。当院は、高度専門医療を提供する医療機関として、命にかかわる病気や発症直後の急性期の診療が主な役割であり、回復期や慢性期には患



県立中央病院長
山田 哲司 さん

こんなとき、 新県立中央病院が 心強い味方に！

石川県の基幹病院として、より高度で専門的な医療を提供できるよう、機能を強化した新県立中央病院。万が一のときには、新病院が県民の皆さんの心強い味方となります。

※ここで紹介するケースはあくまでも一例です。

また、県立中央病院では、石川県の高度専門病院として地域のかかりつけ医と連携し、診療にあたっています。



CASE.01

40歳で初めての お子さんを 妊娠のA子さん



新県立中央病院
ここがポイント

手術部門、小児科と連携 母子の健康をサポート

待望のお子さんを妊娠中のA子さん。無事8カ月に入りました。今日はお産準備のため、ご主人と買い物中です。

ところが、途中から次第にお腹が痛くなり、少し出血もみられます。A子さん夫婦は急いで、かかりつけ医を受診しました。お腹の痛みはさらに強くなっています。かかりつけ医はA子さんを一目見て、緊急帝王切開が必要かもしれないと判断しました。予定日はまだまだ先です。

県では、以前から産前産後の母子の健康を守る周産期医療の充実を力を入れてきました。その体制を強化するため、新県立中央病院では、総合母子医療センターを全国で初めて手術室や小児病棟と同じフロア（4階）に配置し、産科・分べん室から手術室、新生児室を最短距離で結ぶ動線を確保しました。また、出産前から母体・胎児の状態を適切に把握し、リスクの高い分べん

や緊急手術、妊娠中の内科・外科的な病気などにも迅速に対応でき、産科・小児科をはじめ各科が連携して質の高い医療を提供しています。

A子さんのケースでも、かかりつけ医からの母体搬送ホットラインが県立中央病院に届けば、早急に帝王切開専用手術室でスタッフが準備し、万全の受け入れ体制を整えます。救急車到着後は、直通のエレベーターで手術室に搬送。帝王切開が必要と診断された場合は、すぐに手術を行うことができます。手術後もお母さんは母体・胎児集中治療室（MFICU）、赤ちゃんは新生児集中治療室（NICU）で治療するなど、新病院は24時間体制で手厚いサポートを行います。

体制を強化した総合母子医療センター

24時間体制で母子の健康を守ります
※写真は旧病院

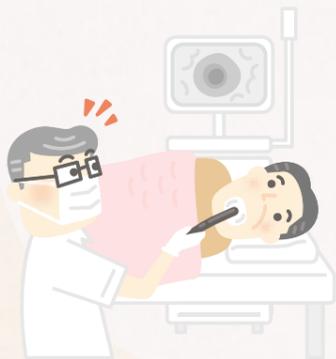
小児病棟は明るい雰囲気

CASE.02

働き盛りの 50代会社員 人間ドックで 胃がんを発見！

県内メーカーで働くB夫さん（55歳）は、海外営業部門を取り仕切る部長として、忙しい毎日を送っています。休日になると、得意の日曜大工で奥様ご希望の棚を作るなど、仕事場でもご自宅でも頼りになる大黒柱です。

そんなB夫さんですが、同僚の勧めもあって受けた人間ドックで胃がんが見つかりました。自分自身の体のことはもちろん、仕事や家庭生活についても心配事ばかりが頭に浮かびます。



新県立中央病院
ここがポイント

内視鏡・手術・化学 放射線が治療の柱

がんは、かつて「不治の病」というイメージでしたが、近年では早期に発見できれば十分に治すことができます。がんの治療法は主に4種類。体にメスを入れずに内視鏡単独でがんを取り除く「内視鏡治療」、体にメスを入れてがんを取り除く「手術療法」、抗がん剤を投与する「化学療法」、がんを放射線で狙い撃つ「放射線療法」があり、県立中央病院では、これらを組み合わせる集学的治療に取り組んでいます。

それぞれの療法で医学技術は飛躍的に進み、新県立中央病院では、先進的ながん治療を提供できる環境を整備。さまざまな手術に対応するため、手術室を以前の10室から

14室に増やし、カテーテルを挿入する血管内治療と外科手術の両方が同時に行える手術室も整備しました。同様に、入院することなく通院で抗がん剤治療を行うことができます。化学療法室も16床から25床に増やし、B夫さんのような現役世代の方でも、働きながら安心してがん治療に臨める環境も整備しています。新病院は、がんの発見から治療までのあらゆる段階で、身体面だけでなく、精神面から支えられる病院づくりを目指しています。



特定集中治療室 (ICU)

最新のMRIを導入

手術室は4室増設

血管造影しながら手術を行う手術室

胸に感じた 小さなしこり。 C美さんの 心配事

C美さん(32歳)には最近、気になることがあります。入浴中、胸に小さなしこりを見つけたんです。かかりつけ医を受診したところ、「乳がんの疑いも考えられるので、念のため設備の整った県立中央病院で精密検査を受けてみましょう」と、紹介状を書いてくれました。

これまで大きな病気にかかったことのないC美さん。「きっと大丈夫」と自分に言い聞かせようとするのですが、結果が分からないばかりに心配です。



新県立中央病院
ここがポイント

全国初の女性専用外来 プライバシーに配慮、 安心して受診

乳がんをはじめとした女性特有の病気は、C美さんのような若い世代でも、日ごろから十分に注意する必要がある、定期的な検査を受けることがとても重要です。

新県立中央病院では、全国



検査室と診察室を一体的に配置

で初めて女性専用外来エリアを設置しました。女性のプライバシーに配慮し、男性の目を気にすることなく、安心して検査や診察を受けることができます。

また、検査室と診察室が同じエリアにあるので、検査や診察のたびに病院内を移動する必要はありません。さらに、乳がんを発見するためのマンモグラフィ検査とエコー検査の両方を受ける場合、これまでは検査の都度、それぞれの検査室での着替えが必要でしたが、新病院では2つの検査室と更衣室がエリア内で隣接しているため、その手間がなく、スムーズに検査を受けることができます。

新病院の女性専用外来エリアでは、女性の病気全般に関する相談や診察も行い、女性に対する一体的なサポート体制を提供しています。

女性専用外来エリアの診察室



検査から診察まで安心して受診



全国初の女性専用外来エリア



登山中に 突然、胸に 激しい痛み！

D吉さん(67歳)の趣味は、友人に誘われて始めた登山。一眼レフカメラを片手に雄大な景色や高山植物を撮影するのが何よりの楽しみです。

今日も仲間とともに山登りをスタートし、いつも通り快調に歩いていたD吉さん。山頂近くまで来たところで突然、胸部に激しい痛みを感じ、息苦しさを感じて動けなくなってしまうました。

当然、山の中ですから車は入ってくることはできません。D吉さんを担いで下山しても、時間がかかってしまいます。



新県立中央病院
ここがポイント

屋上にヘリポートを整備 直接、手術室へ患者搬送

このような症状がみられる場合、心筋梗塞など、命にかかわる危険な病気も考えられます。一刻も早く専門の病院に搬送することが大切です。D吉さんのケースでは、救助要請を受けた県の消防防災ヘリによる救急病院への搬送が想定されます。新県立中央病院では屋上にヘリポートを整備し、ヘリでの救急患者の受け入れを迅速に行うことができますようにになりました。

ヘリポートからは直通エレベーターを使って救命救急センターや手術室、集中治療部門に迅速に患者を搬送できます。今年秋ごろには、救急医療に必要な機器などを装備して医師や看護師が同乗するドクターヘリの導入も予定し、

搬送時間のさらなる短縮が期待できます。

加えて、新病院では特定集中治療室(ICU)やハイケアユニット(HCU)、救急集中治療室(EICU)を手術室の近くに一体的に配置するなど、ハード面からも高度医療を迅速に行えるレイアウトに。県立中央病院は、心肺停止や脳卒中といった命の危険にかかわる重症患者、複数の診療科に関係する救急患者などを24時間体制で受け入れる三次救急医療機関であり、新病院では、その機能の充実にも取り組みました。



導入予定の機体と同型機のドクターヘリ
写真提供：中日本航空(株)

屋上に整備したヘリポート



県消防防災ヘリでの搬送訓練の様子



1階の救命救急センター



CTやMRIなどの最新医療機器が気になります

診療放射線技師を目指して勉強中の僕にとって、一番の関心ごとは最新のCTやMRIなど新病院に導入されるさまざまな医療機器です。これほどの最新設備を設置できるということは、県立中央病院には、これらの機器を駆使できるスタッフがそれだけ多くいらっしゃるということだと思います。地域医療をリードする先輩方のように、僕自身もさらに頑張りたいと思います。

金沢大学 保健学類
放射線技術科専攻3年
桐谷 武明さん



安心して受診できる女性専用外来がうれしい

県立中央病院の婦人科に通院しています。以前は、婦人科のすぐ隣にCTやMRIといった検査部門があり、男性の方も数多く行き来していました。新病院では全国初の女性専用外来ができ、区切られたスペースになるそうで、より安心して受診できると感じています。しかも、院内にはカフェもでき、雰囲気も明るくなっています。その点も、とてもうれしいですね。

内見会で来院
久保 陽子さん



1分1秒を争う救命の現場で県立中央病院は心強い基幹病院

事故や災害などの救命の現場では、1分1秒を争う場面が少なくありません。小松市内から県立中央病院に搬送するケースも、年間50～60件ほどあります。新病院では、救命救急センターと画像検査を行う放射線部門を一体的に整備するなど、一層の救急体制が整っていると聞いています。命を守る心強い基幹病院として、県立中央病院の飛躍に私たちも期待しています。

小松市消防本部中消防署
救急救命士
蔦井 沙織さん



県立中央病院との連携深めより安心な地域医療体制を

高度専門医療が必要な場合など、県立中央病院と連携して、患者さんの診療に当たることがよくあります。ですから、建て替えて機能が高まることにも大きな期待を寄せています。特に注目しているのがドクターヘリの導入で、搬送時間の短縮や搬送中から診療できるメリットは非常に大きいと言えます。より安心して地域づくりに向け、さらに連携を深めていきたいですね。

市立輪島病院 病院長
品川 誠さん



他にも安全・安心を守る取り組みが進行中

Topics.1

受診環境の向上を目的に県立高松病院を改築

認知症や精神科に関する医療を提供する高松病院。1966年の開院から50年以上が経過し、老朽化が目立つ管理診療棟の改築に取り組みます。受診環境や、認知症医療の中核病院としての研修環境の充実を目指し、現在、基本設計を進めているところです。

県立高松病院
かほく市内高松ヤ36 TEL.076 (281) 1125

Topics.2

県女性相談支援センターにパープルサポートいしかわを設置

昨年10月、性暴力被害にあわれた方を支援するための相談窓口「パープルサポートいしかわ」を開設しました。電話や面談で相談を受けるほか、カウンセリングや警察への付き添い、医療や法律相談など必要な支援を相談員がコーディネートします。

相談専用ダイヤル/TEL.076 (223) 8955
秘密は厳守します。安心してお電話ください。



相談受付/月～金曜 8:30～17:15
※祝日・年末年始を除く
ただし、緊急医療などの緊急を要するご相談は24時間365日対応しています。



充実した設備を目にし出産への安心が高まりました

この2月に県立中央病院で初めての出産を控えています。産科病棟のある4階を中心に見学し、充実した設備に驚きました。県立中央病院はもともと周産期医療に力を入れ、以前から信頼していました。新病院では、その機能がさらに高まるのが分かり、安心感が高まっています。それにやっばり新しい病院はいいですね。実際に目にし、とても参考になりました。

内見会で来院
中川 義崇さん
美智子さん



新県立中央病院に「私たちも期待しています！」

再スタートを切った県立中央病院。院内外からたくさんの期待の声が寄せられています。

患者さんに気配りしやすいツインクロス型のデザインに

新病院は、上から見ると十字を2つ並べたツインクロス型のデザインです。それぞれの十字の中心にスタッフステーション、その周りに病室を配置し、看護師が患者さんの様子を把握しやすくなりました。4床室も各ベッドで空調の風量を調節でき、ゆったりと療養できます。この環境を生かし、より患者さん一人ひとりにあった看護を心がけていきたいと思っています。

県立中央病院看護部
看護師
小谷内 良華さん



県民や地域の医療機関に安心・満足・信頼を

昨年3月まで38年間、看護師や助産師として県立中央病院に勤務しました。2005年に総合母子医療センターができ、12年に「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受けた病院が、今回の建て替えでその機能をより高め、OGとしてもうれしい限りです。県民や地域の医療機関に、24時間安心・満足・信頼を提供できる病院を目指し、これからも歩いてほしいと思います。

県立中央病院OG
高谷 恵子さん



問い合わせ 県立中央病院 TEL.076 (237) 8211

能美市出身で中日ドラゴンズに所属する京田陽太選手は、入団1年目の2017年シーズン、セ・リーグ新人選手としては「ミスタープロ野球」こと長嶋茂雄さんに次ぐ歴代2位の149安打を放ち、新人王を獲得しました。一層の活躍が期待される京田選手に、1年間の振り返りとふるさとへの思いを聞きました。

2017年シーズンは、目標の一つだった新人王のタイトルを獲得できました。友達や野球クラブでお世話になった方など、地元の方たちからもお祝いのメッセージをたくさんいただきました。本当にありがとうございます。振り返ると、入団1年目は実

地元から続々届いたお祝いメッセージ

活躍する姿を。

走・攻・守すべてに磨きをかけて、ふるさとの球場で

いろいろな経験ができた年だったと思います。昨年3月に開幕スタメンで出場した際は、これまでに経験のない緊張感で足が震えました。それでも、5月ごろからはプロのスピードにも慣れ、良い状態をキープできました。ただ、プロの世界はやはり甘くないですね。8月からは相手チームに研究され、連戦や暑さによる疲労も重なって、思うような成績を残せませんでした。

プロ野球選手として全国を転戦する中で、海鮮やお米などのおいしいものが多く、温泉や自然にも恵まれた石川県の魅力をより強く感じています。特に、ふるさとで思い出深いのが、小松市の木場潟公園です。週末になると、よく家族で出かけた場所、この公園で父と遊んだキャッチボールが僕の野球人生の出発点になっています。そして、地元の野球クラブに入り、本格的に野球を始めました。



先頭バッターとして1年を通して奮闘を見せた京田選手 (写真提供:中日ドラゴンズ)



京田陽太さん

プロ野球選手

木場潟公園が野球人生の出発点

いい時もあれば、プロの厳しさも知った1年で、自己採点すると60点くらいです。新人王には選ばれましたが、反省点はいくつも思い浮かびます。シーズンを通して試合に出場させていただいたことで見つけた課題を克服し、走・攻・守それぞれでさらにレベルアップしていかなければと痛感しています。

県内にも野球を頑張っている子どもたちがたくさんいると思います。みんなにはぜひ、野球を好きになって楽しんでほしいですね。野球が上手になるためのアドバイスとしては、やはり練習に励むこと。練習はうそをつきません。スイング10本でも、毎日コツコツと積み重ねることが成長につながります。

ふるさとから届く声援は、僕にとって大きな力です。今年5月には金沢で公式戦が予定されています。皆さんの熱い応援を味方に、地元球場で活躍できるように、新シーズンに向けて頑張っていきたいと思っています。

バイスされたからです。あれこれ試してみるなかで、「さすがに早い朝のウォーキングが一番」と、それまで不規則だった就寝時間を夜10時と決め、以来、朝5時に起きて約1時間、金城公園と兼六園を歩いています。食事面でも栄養のバランスを心がけ、お昼は妻が手づくりしてくれる弁当で野菜もパッチリとっています。おかげで今日まで大きな病気もなく、健康に過ごすことができ、体重計に乗って毎日チェックする体内年齢は、実年齢より25歳若い状態をキープしています。いま振り返ると、「あのとき勇気をもって変えてよかった」とつくづく思います。今月から新しい県立中央病院が開院しました。これまで以上に高度な医療体制や快適な療養環境が身近に整うことは、病気になるたとき、とても心強いですが、いつまでも元気で充実した人生を送るためには、まず「健康が第一」。県民の皆さまには、今年も健やかな1年でありませうように。そして、なにかひとつ体にいいことを始める年にしてみませんか。



健康寿命を平均寿命に近づけ、生涯現役で

石川は、「長寿県」の上位にランクしています。厚生労働省の発表によると、石川県の平均寿命は、男性が81・04歳、女性が87・28歳。さらに、平均寿命のうち健康で活動的に暮らせる期間をさす健康寿命も、男性が72・02歳、女性が74・66歳と全国平均を上回っています。しかし、このデータを手放しでは喜べないのです。というのも、平均寿命と健康寿命の差(石川県だと男性で約9年、女性で約12・6年は、病気や衰弱で介護などが必要な期間を意味し、この差が大きくなると、医療費や社会保障費を増大させる一因となるとともに、本人はもとより家族の負担増にもつながります。昨年7月、105歳で亡くなるまで「生涯現役」で活躍された医師・日野原重明さんのようにはないかもしれませんが、どうすれば健康寿命を延ばすことができるか、私たちが一人ひとりが考えなければならぬ問題だと思っています。そのカギのひとつが、生活習慣と言われています。実は、私は15年ほど前、あるきっかけで生活のリズムをガラリと変えました。腰に違和感があり病院へ行ったところ、「異常はありませんが、筋肉が落ちないよう運動をお勧めします」とアド



民話に加え、オリジナル作品もいろいろ。影絵の演目もあります



退職した保育士さんを中心に、結成してから23年。現在は15人ほどの方が参加しています

●問い合わせ
人形劇サークル「くるりんぱ」
会長:押田弘子
TEL.076(246)0112 (野々市市社会福祉協議会)

smile 石川のボランティア

ほほえみ

人形劇サークル「くるりんぱ」(野々市市)

地元の民話を中心に人形劇を披露 喜ぶ顔がやりに

野々市市にお住まいの方を中心に結成する人形劇サークル「くるりんぱ」。保育園や放課後子ども教室、高齢者福祉施設などで、地元の民話をはじめとした人形劇などを披露しています。野々市市内だけでなく、金沢市や白山市、小松市、内灘町などの近隣市町からも公演依頼が届くそう、結成から23年、出演した舞台は200回以上に上ります。人気を呼ぶ理由の一つは、愛らしく、個性的な手作りの人形や、飛び交う方言などに象徴される温かな雰囲気

です。会場には、映像ではない生の舞台に、ぐんぐん引き込まれていく子どもやお年寄りの方々の喜ぶ顔がずらり。「公演を楽しんでくれる皆さんの表情が私たちのやりがいです」と、舞台の雰囲気同様のやさしい笑顔で、メンバーは口をそろえます。もちろん、よりよい舞台づくりにも余念がなく、毎週水曜日にはメンバーが集まって練習に励んでいます。これまで上演した演目は20作品以上。現在は「因幡の白うさぎ」など、新作の練習にも力を入れているところで、今年魅力アップした人形劇でさらに多くの人たちの心を引きつけていきます。

風情異なる総湯と
温泉街めぐりはいかが

加賀四湯博の一番のおすすめは、イベント名の示す通り、加賀エリアが誇る「あわづ」「片山津」「山代」「山中」の4つの温泉です。それぞれの温泉街の中心には、地元の人たちが足しげく通う総湯があり、だれでも気軽に立ち寄ることができます。

モダンなデザインの大浴場から湖を望んだり、九谷焼タイルやステンドグラスが明治時代の温泉情緒を演出していたりと、どの総湯も個性的。肌になめらかな泉質で、体の疲れを癒やすなど、さまざまに効能も期待できます。また、山中温泉では、

カニ汁大鍋を用意するなど、温泉街では、冬ならではのグルメを味わうことができます。



加賀四湯博10周年記念としてフォトコンテストを開催中

SNSで投稿するだけ
フォトコンテストも開催

温泉でじっくりと体が温まった後はぜひ、温泉街へ。今年度の加賀四湯博は10周年にあたり、3月31日までの期間中、柴山湯(片山津)や鶴仙溪(山中)、魯山人寓居跡(あわづ)など、加賀温泉郷のおすすめ10スポットのフォトコンテストを開催しています。

参加方法はSNSに撮影した写真を投稿するだけ(詳細は加賀四湯博ホームページをご覧ください)。参加された方の中から抽選で、加賀温泉郷のイメージキャラクター・カガ子のオリジナルグッズをプレゼントしています。気軽に参加し、皆さんの自慢のお写真とともに、加賀温泉郷の魅力を発信してください。

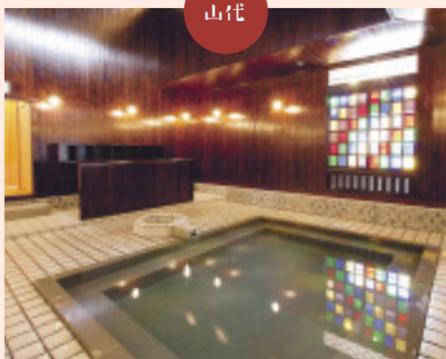
●問い合わせ
粟津温泉観光協会
TEL.0761(65)1834
片山津温泉観光協会
TEL.0761(74)1123
山代温泉観光協会
TEL.0761(77)1144
(一社)山中温泉観光協会
TEL.0761(78)0330

加賀四湯博



山中

温泉街の中心にあり、地元の人や観光客でにぎわう山中温泉総湯



山代

山代温泉には総湯、古総湯があり、異なる雰囲気を楽しめます。写真は古総湯



片山津

片山津温泉総湯には「湯の湯」「森の湯」があり、毎日男女で入れ替わります



あわづ

2018年に開湯1300年を迎えたあわづ温泉の総湯

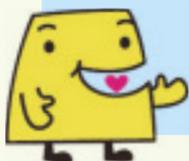
冬のおでかけ情報

ゆったり
ポカポカ

「加賀四湯博」& 「能登ふるさと博」 を開催中

うまいもん
満載

寒い冬ですが、県内には心も体も温めてくれる楽しいイベントがめじろ押しです。ゆったりと温泉で日ごろの疲れを癒やす「加賀四湯博」、うまいもんがずらりと並ぶ「能登ふるさと博」はどちらもおすすめ。ご家族やお友達と一緒におでかけください。



のとドン



のどぐる祭りには羽咋市内の飲食店も多数出展

冬の能登 プレゼントキャンペーン

うまいもんイベントに出展している店舗で、商品をご購入いただいた方に配布する応募券で、「冬の能登プレゼントキャンペーン」に参加できます。抽選で能登の特産品セットやのどしま水族館招待券が当たります。

能登ふるさと博

3月18日(日)まで開催中!

半島全体がパビリオン
週末は能登へ

今年度、能登ふるさと博は10周年。能登半島全体を巨大なパビリオンに見立て、週末を中心に各地で魅力あるイベントを開催しています。特に、冬の能登にはおいしい味覚がいっぱいで、各地でうまいもんイベントが盛りだくさんです。

例えば、1月28日には、のと里山海道千里浜IC近くに、昨年7月にオープンした道の駅「のと千里浜」を会場に、新たに「のどぐる祭り」を開催します。祭り当日は、上質な脂のうま味がたっぷり口の中に広がるノドグロを使っただんご鍋を振る舞うほか、心も体も温まる地元グルメを思う存分、堪能できます。

地元だからこそ
特別メニューに舌鼓

能登ふるさと博期間中は、各地の協賛飲食店や宿泊施設で、その地域ならではのうまいもんメニューも用意しています。和倉温泉の旅館で腕をふるう料理人が能登の食材で作ったおむすびにだし汁をかける「わくらむすび」、天然ぶぐの漁獲量が2011年から5年連続日本一の輪島市内で提供する「輪島ぶぐ」など、各地域の絶品メニューを「ご賞味ください」。

このほかにも、酒蔵めぐりや奥能登の伝承行事「あえのこと」の見学などのイベントも実施。今年度は「能登立国1300年」の記念の年にあたります。能登ふるさと博ホームページなどで、イベントカレンダーをチェックし、この機会に能登へ足を運んではいかがでしょう。



1杯のお茶漬けに能登の幸をつめ込んだ「わくらむすび」



輪島ぶぐをお手ごろ価格で味わえます

●問い合わせ
「ほっと石川」観光キャンペーン実行委員会
事務局:県観光企画課
TEL.076(225)1542

能登ふるさと博

Information



●問い合わせ
 県選挙管理委員会
 TEL.076(225)1282 / FAX.076(225)1287

石川県知事選挙

※欠員が生じている選挙区では、県議会議員補欠選挙も行われます。

投票
 予定日 **3月11日(日)**

当日投票できない方は、2月23日(金)から
 (県議会議員補欠選挙は3月3日(土)から)、
期日前投票ができます。

投票は
18歳からだよ!!
 ぜひ足を運んでね



イメージキャラクター
 ひやくまんごっくん

広告

ひなたの中に、
 もうひとつの
 リビングを。



- 金沢駅から 徒歩10分の好立地
- いつでも安心の 医療・介護体制
- ゆとりの暮らしと 四季折々のお料理



※ベッド以外の家具は付いておりません。

資料請求・ご見学・体験入居は
 こちらからもお問い合わせいただけます。

076-293-3350

ひなた駅西 検索 〒920-0022 金沢市北安江3丁目3番1号
<http://springlife.jp/hinata>



- 金沢市有料老人ホーム
 設置運営指導指針による表示
- 類型 / 介護付有料老人ホーム
 - 居住の権利形態 / 利用権方式
 - 利用料の支払い方式 / 選択方式(月払い方式・一時金方式)
 - 入居時の要件 / 自立・要支援・要介護
 - 介護保険 / 金沢市指定介護保険特定施設
 - 介護居室区分 / 全室個室(全61室)
 - 介護にかかわる職員体制 / 3:1以上
 - 開設 / 平成26年4月2日
 - 概ね70歳以上で、共同生活を営める方。

前略 石川県知事

県政に対する
**ご意見・ご提言を
 お寄せください**



住所・郵便番号・氏名・年齢・職業をご記入の上、
 郵便またはファクスでお送りください。

〒920-8580 (住所の記入不要)
 石川県広報広聴室「前略 石川県知事」あて
 TEL.076 (225) 1362 / FAX.076 (225) 1363

ふるさと納税

「ふるさと石川」の魅力アップに活用します。
 県外在住のご協力者を紹介してください。

● 問い合わせ
 県民交流課 TEL.076(225)1361
www.pref.ishikawa.lg.jp/kenmin/furusatonouzei/

